

2022 年 11 月 5 (土)

宮之浦岳 (1,936 m)

～Report by 高橋(雄)～

いよいよ今日は今回の屋久島山行のメインイベント、宮之浦岳に登る。

3:30 起床。

身支度をして、宿のご主人から朝食用の弁当を受け取り、外に出た。



外は真っ暗。だが満天の星。

雨でも曇りでもない。このまま一日晴れてくれますように。

中島さんはいくつか流れ星を見つけた。

4:00 できるだけ早く登山口の駐車場に着きたいので、朝食用の弁当は食べずにレンタカーで出発。淀川登山口を目指す。

真っ暗な山道をひたすら走る。

4:50 林道終点の登山口手前 200mぐらいの曲がり角にさしかかった。車が 2 台止めてあり、外に人が出ていて、こちらに腕で×している。聞くと、登山口の駐車場はもういっぱい、ここに戻ってきて路駐しているという。その隣にスペースがあったので、道路際ギリギリに車を寄せて我々も路駐することにした。

外は寒い。車の温度計は外気温 5℃だ。ヤッケなどを着込む。



当初の予定では 5 時出発だったが、暗い中での歩行時間を少なくしようということになって、出発を 1 時間遅らせた。

車の中で暖を取りながら朝食のおにぎり弁当を食べた。

魔法びんに詰めてきた温かいお茶で流し込む。



朝食の弁当を時間をかけて食べ終わり、登山口のトイレも済ませて、

6:00 淀川登山口(1,330m)からいよいよ歩行スタート。

登山口の看板の前で恒例のスタート写真を撮ろうとしたが、まだ真っ暗で、うまく撮れない。すると駐車していた車がライトを点けてくれ、なんとかパチリ。



木の階段や木の根道は濡れており、滑り易い。ヘッドランプの灯りを頼りに慎重に進む。

気温が低いので着込んでいたが、登り始めるとすぐに暑くなる。

6:13 汗ばんできたのでヤッケを脱ぎ、薄着になった。



6:30 ごろ、明るくなってきて、ヘッドランプを消した。

6:50 登山口から 1.5km、1,380m の淀川小屋着。



7:00 淀川小屋発。

川の橋を渡る。



橋の上からは澄んだ流れと紅葉が楽しめた。



橋を渡ったところから本格的な急登となる。



8:03 高盤岳展望所 1,603m



てっぺんに「トーフ岩」↓と呼ばれる奇岩が乗っかっている高盤岳(1,711m)が見えるところだ。



8:16 1,650m。サルの群れと遭遇



奇岩



8:20 1,661m。峠のピークの展望所。
今度は人の顔っぽい奇岩が見える。



8:30 1,639m。展望所から少し下ったと
ころで今度は鹿に遭遇。オスだ。近いが逃
げる様子はなく、こちらを見ていた。



8:32 1,620m。小花之江河。
きれいな水の湿地帯。
どうやらここはさっき見かけたサルや鹿
の水場となっているようだ。



ここからもトーフ岩の高盤岳が見えた。



ちょっと登り返して

8:39 1,650m。

ここは登山口と山頂のどちらにも 4km の中間地点。



またちょっと下って

8:42 1,630m。花之江河。

最南の泥炭湿原なのだそう。

10 分休憩。

辺り一面きれいな苔に覆われている。

中島さんは苔の上に手を伸ばし、トトロとこだまをセットして撮影にいそしむ。



その作品↓



←行く手に黒味岳(1,831m)が見える。
ズームアップすると山頂の岩の上に人が立っているのがわかる。↓





9:05 黒味岳分岐 1.680m
 黒味岳へ往復すると1時間はかかるのでパスして先へ進む。

大きな岩のロープ場を一旦下ると、次は登りのロープ場が待っていた。(確かロープ場は5か所あった。)



9:30 ロープ場の上で一休み。きれいな苔があった。中島さんはこだまを置いてパチリ。





9:44 投石平。1,680m
山頂まであと 2.6km。高低差 250m。
登り行程の 1/3 をこなせば山頂だ。



ちょっとした沢歩き状態の道が続く。
下は花崗岩で、泥でぬかるんでいないのは
救いだ。



見晴らしのいいところに出ると、また様々
な奇岩が目を楽しませてくれる。



トトロに似た岩。



クジラ



クマ



オットセイ



ラッコ?



山肌は大部分が緑の笹で覆われているが、ところどころ赤い。
登山道の脇にもあったこれ↓ではないかと思うが、名前は不明。



10:52 1,734m 水場があった。ちょうど空になったペットボトルに汲んで水分補給。冷たくておいしい。



さあ、山頂までは残すところ安房岳、翁岳を巻いて栗生岳を経由して、もうひと頑張り。

もう奇岩だらけ。いちいちネーミングしているときりがない・・・



11:27 宮之浦岳手前の栗生岳（1,867m）
にたどり着いた。
ばんざい？いや、どちらかというと、もう
お手上げ状態。
しかしあと本当にもう一息。気をとりなお
して最後の登りにとりかかる。



山頂直下の巨岩の割れ目。
14 年前に来たときは、山頂が雨と強風で、
ここまで降りてきて風を避けながらお昼を
食べたのを思い出した。



あそこが山頂か？と思って頑張ると、その
先にまた次のピークが現れてガックリ・・・
を 3 回繰り返して、

11:45 宮之浦岳山頂(1,936m)到達！



快晴、無風。視界は 360 度良好。口永良部島、硫黄島、種子島なども確認できた。



山頂から見た島や、山の名前等は以下サイトをご参照。(手抜きでスミマセン。でもまさにこの通りでした。)

<https://www.360navi.com/46kagosima/04miyano/03top/pano-mob.html>



←昨日行った白谷雲水峡の太鼓岩の方向に種子島が見えている。
硫黄島↓は北の方角にうっすらと見えている。



数年前に噴火のあった口永良部島も見えている。



昼食。
ボトルは三岳だが中身は残念ながら麦茶。



もちろん、トトロとこだまも登頂写真を撮った。





12:30 下山開始。

登ってきた道のピストン。

下山時は登山時と比べて特に変わったトピックスもないため、途中経過は大胆にも省略。(*_*)



・・・というわけで、下山すること 5 時間弱、もういいかげん歩くのがいやになってうんざりという状態だったが、

17:13 無事淀川登山口に戻った。
なんとか明るいうちに帰れてよかった。



路駐していたレンタカーに戻り、宿をめざして出発。



ほどなく日がとっぷり暮れて、辺りは真っ暗。と、ヘッドライトに鹿が！
急減速してやり過ごす。

早く下山できたら尾之間温泉に寄って汗を流してから宿に帰ることも考えていたが、結局、朝出発を 1 時間遅くした分をカバーすることはできなかったため、温泉はパスして宿に直接戻った。

18:30 民宿着。宿の風呂に入って、部屋で缶ビールで乾杯した後、19:30 食堂に行って夕食。



宿の特製食前酒で乾杯した後は、昨日買っておいした三岳の島内限定酒をたっぷり味わった。

料理は見ての通りの豪華さ。
特にエビは特大。

お腹いっぱいになって部屋に戻るとバタンキューでした。

終日快晴で、14年前の雨の宮之浦岳のリベンジを果たし、無事に帰還できて大満足の日でした。

お疲れさまでした。

GPS 記録は以下ヤマレコに投稿しました。こちら↓をご参照。

https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail.php?did=4882920&com_id=2868895&com_routid=2868895